

特別号

FDC月刊情報誌「テキスタイル&ファッション」

財団法人 一宮地場産業ファッションデザインセンター

# 20周年の足跡

昭和59年～平成16年

今、ここから未来へ挑戦

財団法人 一宮地場産業ファッションデザインセンター

# 祝 辞

愛知県知事 神田 真秋

FDCの開館20周年を心からお喜び申し上げます。

今日に至るまでの、歴代の理事長始め、役員及び出捐自治体・団体等関係各位の方々が積み重ねてこられた御努力に対し、ここに深く敬意を表します。私も、一宮市長在職中には理事長として微力ながら運営に携わっておりますので、感慨もひとしおであります。

FDCは、設立以来、尾張西部地域において地域産業の育成、とりわけ毛織物を中心とした繊維産業の育成のため、ファッショントレンドの情報収集・発信機能を十二分に発揮してこられました。また、フランスのオートクチュールデザイナーを招聘したパリ・ファッション・ファンタジーの開催により、産地のファッションに対する意識改革を促すなど、ファッション振興の中核として地域に多大な貢献を果たしてこられました。

最近では、激変する経済環境にあって企業、出捐市町村・団体のニーズが大きく変化してきたことに対し、昨年度事業内容の大幅見直しに取り組みられました。その結果、今年度から「よりビジネス寄りに」をキーワードに企業の方々の実務に直結した事業として、パリのメジャートレンドセッターとの連携の下に、世界へ尾州をアピールする「尾州テキスタイルエキシビション」を開催するなど、着実に成果をあげているとお聞きしております。

本県といたしましても、今後新産業の育成や地場産業の活力向上に向けた諸施策を強力に展開してまいりますので、皆様方におかれましても、これを契機に、繊維産業を始めとした地域産業の新たな発展のため、一層御尽力いただき、その役割を余すところなく発揮されますことを期待し、お祝いの言葉といたします。



99/00秋冬FDCテキスタイルコレクションで挨拶する神田市長(当時)

# 尾州ルネッサンスの実現に向けて

理事長 一宮市長 谷 一夫

一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）は昭和59年2月の開館以来、20年の時を刻むことができました。これも偏に、財団の設立以来、ご尽力・ご支援を賜りました国、愛知県を始め尾張24の市町村、業界団体の皆様、さらには快くセミナーを引き受けていただきました講師陣のお陰であります。衷心より厚くお礼申し上げます。

当FDCも人に喩えるならば、大人の仲間入りとも言うべき二十歳を迎えたわけですから、盛大なお祝いを催すのが本筋かもしれませんが、当地域の地場産業とりわけ繊維産業を取巻く経済環境は大変に厳しいものがあります。お祝いといえども地に足を着けた取組みが必要と考え、記念式典、祝賀パーティーに替えての20周年記念ウイークに、伊勢丹の武藤社長をお迎えしての記念講演会と、日本で初めての糸の展示会『ジャパン・ヤーン・フェア（JY）』を開催することとなりました。必ずやこうした催しが明日のモノづくりに繋がるものと確信をいたしております。

当FDCは、尾張西部地域の繊維を中心とした地場産業を総合的に振興する拠点施設として、昭和50年代中頃の国の施策であった地場産業振興センター建設制度を活用して誕生しました。長年の繊維業界の『ファッションセンターの設立を…』という悲願が達成されたものであり、以来、ファッショントレンド情報の収集・提供、新商品開発、人材育成を三本柱にして産地企業の企画力強化に努めてきました。

今年度、20周年を迎えるに先駆けてFDC事業の大幅な見直しを行いました。これはデフレ経済下の長引く消費の低迷と、中国を始めとするアジア諸国からの安価な製品輸入の増大とに因を發した繊維産業の構造的不況に対処するもので、尾州産地の生き残りを賭けた改革と申し上げても過言ではありません。

新事業の中に掲げましたモノづくりの二つのプロジェクトも、東京でのプロモーション活動も、さらには人材育成のマーケット養成講座も皆様のお力添えにより、ここまでのところ順調に展開しております。また、それぞれの事業内容についても高い評価をいただいております。成果が待たれるところであります。

また、今回の改革では、これまでの繊維産業・ファッション産業の振興に特化したFDCの事業体制も見直し、本来の意味での地場産業振興センターに立ち返って、繊維以外の産業振興、特産品の発掘、地域おこしにその一步を踏出したところであります。

地域の活性化という大きな命題は、一機関の事業改革程度では達成できるものではありませんが、今回の改革テーマであります『尾州ルネッサンス』を実現するため、さらなる努力をお誓い申し上げ、開館20周年記念の挨拶とさせていただきます。



尾州テキスタイルエキシビション

# Change Challenge NEW FDC

FDCは、繊維産業を代表とする尾張西部地域の地場産業の振興を図るため、昭和59年2月に開設されました。

開設にあたっては、国、愛知県及び一宮市を始めとする尾張西部地域24市町村と業界18団体が一致協調して、実現させました。場所は尾張西部地域のほぼ真ん中に位置し、愛知県産業技術研究所尾張繊維技術センターとも隣接しており、事業も両機関がそれぞれの機能を発揮、補完して、有機的連携を持って活動しております。

FDCは開館以来20年、情報の収集、分析、提供や新商品の開発、人材育成など産地振興に取り組んできました。とりわけテキスタイルを中心としたファッション情報の提供事業に力を注いできました。

FDCは20周年を機に、国際化の進展や業界情勢の激変に対応して、平成15年度から事業内容を大きく変換しました。「チェンジ・チャレンジ、NEW FDC」を合言葉に「顧客の創造」をテーマとするファッション事業、「地域の再興」を目指す地域おこし事業を展開していきます。

今後も「よりビジネス寄り」に軸足を置き、尾張西部地域の発展に寄与しつづけます。

## FDC概要

- 名称／財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）
- 所在地／愛知県一宮市大和町馬引字南正亀4番地の1
- 代表者／谷 一夫（一宮市長）
- 設立／昭和57年8月7日
- 開館／昭和59年2月13日（建物 鉄筋コンクリート造り4階建て）
- 出捐（えん）団体／  
愛知県

### 尾張西部地域24市町村

一宮市、津島市、犬山市、江南市、尾西市、稲沢市、岩倉市、大口町、扶桑町、木曾川町、祖父江町、平和町、七宝町、美和町、甚目寺町、大治町、蟹江町、十四山村、飛島村、弥富町、佐屋町、立田村、八開村、佐織町（順不同）

### 業界18団体

一宮商工会議所、尾西毛織工業協同組合、尾北毛織工業協同組合、津島毛織工業協同組合、名古屋毛織工業協同組合、尾州織物工業協同組合、尾北織物工業協同組合、尾西紡織工業組合、尾州絹化織物協同組合、尾西染色工業協同組合、愛知毛織物整理協同組合、協同組合一宮繊維卸センター、一宮縫製工場団地協同組合、愛知県燃糸工業組合、一宮織物修整協同組合、津島織物修整協同組合、木曾川織物修整協同組合、社団法人尾西化合織貿易振興会（順不同）



豊島半七副理事長(一宮商工会議所会頭)に聞く

## 地場産業発展の核となる施設目指して

～10回、パリコレメゾン招聘～

インタビュー・FDC月刊情報誌「テキスタイル&ファッション」  
編集長 山下 征彦

### ■第一号のセンターは一宮に

——まず、設立前後の経緯からお聞かせ下さい。

豊島＝FDCの設立は昭和57年（1982年）、開館は59年ですが、その3年前の54年に第二次オイルショックがあり、林紡績（現サンファイン）の倒産や過剰設備の共同廃棄事業が行われるなど大変な時期でした。市況面でも56年には投機筋の介入で、不況にもかかわらず糸糸定期相場が暴騰し、産地は大混乱に陥りました。こんな時、地場産業振興のための核となるオペレーションセンターが欲しいという声が産地内外から上がり、55年に打ち出された国の地場産業総合振興対策に沿って、地場産業センターを設立しよう、ということになったのです。

——順調に推移したのですか。

豊島＝何事もそうですが、反対意見もあり、紆余曲折はありましたが、思った通りのテンポで進みましたね。まず地場産業振興センターの話が中小企業庁から打ち出された直後、当時の江崎通産大臣に「第1号は地元」と陳情しました。旧愛知3区（選挙区）の関連市町村や業界団体からも出捐（しゅつえん）して第三セクター方式でいくことになりました。その際、問題となったのが、名称でした。地場産業といっても、この地域にはテキスタイルもアパレルもインテリアもあります。異業種では七宝焼きなどもあり、繊維センターとはいかないのです。その時、大臣が「地場産業振興センターで



豊島 半七副理事長

は固い。ファッションデザインセンター（略称FDC）にしてはどうか」と提案され、この名称となったのです。

——県などの対応は。

豊島＝当時は仲谷知事でしたが、知事は「商売につながるか、どうか」を一番心配しておられました。これに対しては「FDCは地場産業の発展に貢献する。そしてビジネスにつながる」ということを理解していただきました。

——その後の経過は。

豊島＝森一宮市長（当時）とたびたび陳情に上京しましたが、雪で新幹線が刈谷付近で止まりイライラしたこともありました。55年12月27日、最終的に設置は決まりました。56年には地場産業振興センター制度で国の補助金2億円が決まりましたが、このときはさすがにホッとしましたよ。出捐（しゅつえん）団体となっていたいただいた愛知県、尾張西部24市町村、業界18団体の足並みも揃い、57年には建物の起工式を行い、58年12月に完成したのです。

## ■ファッションの五条件

——開館は翌年でしたね。

豊島=59年の開館です。開館記念式では森英恵さんに記念講演をお願いしたのですが、森さんの言われた5つを今でも覚えております。



森 英恵さん

——どういう話をされたのですか。

豊島=第一はファッションを育むには雰囲気というか、環境が大切である。街並みとか町そのものが持つ文化ですね。第二は関連しますが、美術館とか博物館などの設備の存在が不可欠であること、第三はビジネスホテルではなく都市型シティホテルがあること、第四は、少し驚きましたが、おいしい食べ物がその地にあること、そして第五は有名なデザイナーがいることでした。早速、「先生、一宮に拠点を置いて下さい」とお願いしたら、「東京にいないと仕事ができないの」とやんわり断られました。

——5つの条件を満たすのは大変ですね。

豊島=出来ることはしなくては…と考え、都市型ホテルに付きましては名鉄に話にいきました。また東海銀行（現UFJ）や名古屋商工会議所の三宅会頭（当時）にも誘致を相談しました。それぞれホテル経営のプロに話していただきましたが、すべて断られました。「一宮でシティホテルは採算が合わない」、「名古屋、岐阜、犬山まで簡単に行ける」という訳でね。

——他の条件はどうですか。

豊島=街並みなどは、当面、どうしても

ない問題です。その他の事項も大変なことで、頭を抱えました。

——さて、FDCがオープンしました。当初の主な事業は何でしたか。

豊島=その前に、神田一宮市長（現愛知県知事）から、「FDCはどういう性格のものか」と問われたことがあります。私は「テキスタイルとアパレルの融合の場と位置付けている」と答えました。従って事業内容もそれにそった内容です。具体的に主な事業はFDCテキスタイルコレクション、マーチャダイジングセミナー、インポートファブリック展、新商品開発事業、各種セミナー・講習会及び手描き染・手織教室の開催などです。これらの中には歴史的使命を終えて、平成15年度から中止したものもあります。企業でもそうですが、事業領域の見直しは必要です。

——織物競技大会もありましたね。

豊島=全国織物競技大会は、昭和26年から39回にわたって続けられ、平成3年の一宮市制70周年記念の「国際ファッション&テキスタイルウィーク」、いわゆるFATEX91で休止となり、その後ジャパン・テキスタイル・コンベンション（JTC）の中のコンテストとして引き継がれました。これは平成14年に名称をジャパン・テキスタイル・コンテスト（JTC）と改称、人材育成にも重点を置いたのです。



JTC2002

——テキスタイルコンテストについてもう少し詳しく説明を。

豊島=FDCでの開催になってからは、会社中心の出展から個人主体のイベントに置き換えました。人材育成の立場から個人名での応募にしたのです。これに反対がありましたね。「上位入賞者がスカウトされる恐れがある」とか「入賞者の給料があがる」とかね。結局は個人出展、個人表彰になりました。FDCでの開催の第一回目のグランプリは残念ながら、尾州産地からは出ませんでした。

### ■ショー、10回はやり抜こう

——パリコレクション参加者のショーもやられていましたね。

豊島=そう。国際的舞台上で活躍するメゾンのショーを尾州産地で、という思いが高まりました。平成3年のFATEX91から始めました。神田前市長や谷市長はじめ関係者は、「困難があっても10回はやろう」、という意気込みでした。名称はパリ・ファッション・ファンタジーで、森英恵さんとオリビエ・ラピドスさんがFATEX91で競演したのが第一回でした。世界のメゾンが見えるということで、大変な人気で、前売り券は早々に完売、当日は立錫の余地がないほどでした。

——10年間続きましたか。

豊島=森さんの2回を含めて2000年までに10回行いました。森さん以外の招聘メゾンはルコアネ・エマン、ピエール・バルマン、ニナリッチ、ギ・ラロッシュ、エマニュエル・ウンガロ、パコ・ラバンヌ、ジャン・ルイ・シェレル、ルイ・フェローです。

——どういう評価でしたか。

豊島=一宮市民を含めて尾張西部地域の

ファッション関係者、テキスタイル従事者にファッション文化とアパレルへの認識を高めました。日本の繊維・ファッション業界へのインパクトと言う点でも伊勢丹が毎回10名前後を来場させるなど、インパクトはあったと思います。

——失礼な質問かも知れませんが、パリのオートクチュールへのコネクションはあったのですか。

豊島=森英恵さんですよ。我々も怖いもの知らずで、「一流のデザイナーであること」、「必ず本人が来ること」と条件を付けたのです。森さんにオートクチュール協会の会長に話をつけていただき、実現しました。会長も一宮を訪れ、色々とお話しました。来なかったデザイナーが一人いましたが、これは心臓病で飛行機に乗れなかった方です。神田知事としては2005年の万博で世界一流のデザイナーのショーを、という思いがあったのではないのでしょうか。このイベントは神田さんの市長在任中8回、後任の谷市長になって2回やりましたが、知事の思いは強かったと思います。後に谷市長と長尾さん（尾西毛工理事長）、佐々木さん（一宮繊維卸センター理事長）と私でその可能性を探るため、パリのメゾンを回ったのですが、結果は膨大な費用がかかりましたし、難しい条件が多かったですね。

——10年間の継続はすごいことですね。

豊島=日本広し、といえども10年間も続けてこれだけのショーをやったのは一宮だけでしょう。本物のファッションとの出会いは画期的で一大エポックです。効果を数値で表すことはできませんが、わが国のファッション文化に大きく貢献したと思いますよ。

——メゾンの方の反応は。

豊島＝日本の片田舎の一宮によく来てくれました。例えば、前夜祭にワインで乾杯しようとした時、あるデザイナーは「ここは日本、日本酒で乾杯しよう」と日本を理解していたし、事前に挨拶に行こうとすると「ショーが終わってからにして。今は緊張しているから」と言うのです。プロ意識ですね。一宮であろうと、どこであろうとショーと自分のブランドを大切にするわけです。世界の一流は違う、と強く感じ入りました。

### ■皇太子殿下がFDCにご行啓

——この20年、FDCには多くの著名人が訪れましたね。

豊島＝開設直後から通産省（現経済産業省）のお方や全国のリソースセンターの方々が来ました。



皇太子殿下、妃殿下ご行啓のひとコマ

最も緊張したのは昭和61年11月8日の皇太子殿下、妃殿下（現天皇陛下、皇后陛下）のご行啓です。平成6年11月には常陸宮殿下ご夫妻もご来館頂きました。皇太子殿下のご行啓の際は、10月におこなった秋冬トレンド展を御覧いただきました。ご説明役として風合いの話になった時、私は「触ってお確かめ下さい」と言ったのですが、後から「お触れ下さいというべきだ」と言われました。常陸宮殿下とは宇宙飛行士の向井

さんの話題になり、メダカは宇宙酔いをするか、どうかの話となり、殿下が「宇宙でも水の中にいるのだから、宇宙酔はしません」と答えられたのを記憶しております。

——色々な思い出がありますね。さて、20周年を迎えたわけですが、今後の方向は。

豊島＝FDCは今年度から新機軸を打ち出し、国際化を踏まえて更にビジネスにつながるよう、事業内容を一新しました。具体的にはテキスタイルとアパレルの融合ですね。平成15年、JTC（ジャパン・テキスタイル・コンテスト）の入賞作をエキスポフィルに初出展しましたが、これなど今まで考えられない画期的なことです。また、昨年JTC準グランプリの素材は大手アパレルに大きく取り上げられました。

——FDCルネッサンスと言われておりますが。

豊島＝ルネッサンスのように前進しようと言うものです。ファッション事業に関してはプロダクト事業、パーソン事業、プロモーション事業に大別できます。プロダクト事業は売れる物作りの推進を内容としたもので、産地の匠を結集した「匠ネットワーク」、ネリーロディ社とのコラボレーションによる「ユーロ・テキスタイル・プロジェクトチーム」、FDC独自のオリジナル素材開発、テキスタイルプランナー協議会による開発、次世代繊維開発など行っています。このうち、「匠」と「ユーロ」は平成15年12月のJC（ジャパン・クリエーション）に出展し、合わせて1,096点ものリクエストがありました。「プランナー協議会」では話題のトウモロコシ繊維や風合いを損なわない水洗い可能なウール100%のスーツ素材を開発しております。もちろん関係機関のご協力もいただいております。



——ネリーロディ社との提携はメリットが大きいですね。

豊島＝世界的に有名なファッション情報企業であり、特にアパレル業界ではそのトレンド情報は定評があります。産地よりアパレルの方がよく知っています。それとFDCが提携しているわけで、ご指摘の通り大きなメリットとなっています。JCで、ネリーロディの指導を受け製作をした「匠」や「ユーロ」の作品が大好評だったことを見ても提携は成功でした。



匠ネットワークの記者会見

——パーソン事業は。

豊島＝「売る人」の養成です。尾州は物作りに関しては得意ですが、売るのは問屋まかせの部分が多かったのです。(財)ファッション産業人材育成機構と提携して「創造的マーケター養成講座」を開設したほか、各種の技術セミナーを行っています。マーケター養成講座は次世代の経営者、幹部を対象にしていますが、開催日が土曜日にもかかわらず、ほとんど欠席がありません。

——発信にも積極的です。

豊島＝良い物を作っても提案、発信をしなければ認められません。JCなど東京での展示会への参加、尾州でのテキスタイル・エキシビション開催、FDC情報誌「テキスタイル&ファッション」などで、産地発、

FDC発を訴求しています。露出度を高めることで、尾州産地には「面白い素材がある」、「尾州の素材はすごい」というイメージを植え付けていきたいですね。



テキスタイル&ファッション

——地域おこしも行っていますが。

豊島＝地場産業発掘事業や手描き染教室、手織教室、おやこふれあい教室など尾張西部24市町村と一体となって展開しています。住民参加のFDC活動を強めていきます。

## ■出会いの場を創出

——最後に今後の抱負を。

豊島＝産地は今、大変厳しい状況にあります。設立当初の精神に立ち返り、ビジネスに役立つ業務を推進します。2月4日から6日までわが国で初めてのジャパン・ヤーン・フェアもFDCで開催します。最近開発された多くの差別化糸を産地の人に見てもらいます。新しい商品との出会い、国内・海外の人との出会いの場など、FDCは関係団体とも協力してビジネスチャンスの創出に研ぎをかけます。

——長時間ありがとうございました。

# FDCの事業ドメイン

FDCの事業内容は大きく、繊維産業支援事業（ファッション産業支援事業）と地場産品発掘・地域交流事業（地域おこし事業）に分けられます。

FDCは20周年を機に、平成15年度から事業内容を大きく転換しました。

## チェンジ・チャレンジ NEW FDC

を合言葉として「顧客の創造」を主テーマに、ファッション事業、地域おこし事業を皆様と共に展開していきます。

### 繊維産業支援事業

#### 3つのP

PRODUCT (つくる) ⇒ 売れるものづくり  
PERSON (育てる) ⇒ マーケターの育成  
PROMOTION (普及する) ⇒ ビジネスチャンスの創出

### 地場産品発掘・地域交流事業

#### 2つのA

APPERL (アピールする) ⇒ 地域の魅力発掘  
AMUSE (楽しむ) ⇒ 地域住民との交流

# FDC繊維産業(ファッション産業)支援事業

## 1、PRODUCT(つくる)スキーム

プロジェクト1	FDC匠ネットワーク
プロジェクト2	FDCテキスタイルプランナー協議会
プロジェクト3	次世代繊維産業開拓事業
コラボレーション1	JTC(ジャパン・テキスタイル・コンテスト)
コラボレーション2	ユーロテキスタイルプロジェクトチーム

### プロジェクト1・FDC匠ネットワーク

長引く消費不況、中国製品を始めとした輸入の増大で、尾州産地は規模縮小を余儀なくされていますが、それは同時に百余年にわたり産地に培われてきた技術や意匠の消滅にもつながりかねません。そうなっては遅い、とFDCは平成15年5月、産地の技の伝承を目的に「FDC匠ネットワーク」を発足させました。紡績、撚糸、織り、ニット、染め、仕上げ、後加工の匠20名を5グループに組織して、約50点の作品を作成、11月に東京で開催された繊維総合見本市(JC)プレビューと12月のJC本番に出品しました。「匠ネットワーク」単独で出品したJCプレビューでは41社から250点のリクエストが寄せられ、匠ネットワークの「尾州の技」健在を誇示しました。FDC匠メンバーは次の皆さん。



JCプレビュー「匠ネットワーク」



匠ネットワーク発足

#### 〈FDC匠グループメンバー〉

紡績	高橋 富男(日本ハイスピナー)	渡邊 文雄(東和毛織)
撚糸	飯海 哲郎(丸清撚糸)	富板 浩三(豊田撚糸)
メンズ企画	河路 孝(ハロー企画)	水谷 透(ルアトリエ トオル)
	渡邊 忠司(FDC)	
レディス企画	足立 聖(カナーレ)	渥美 充和(アツミテキスタイル工房)
	飯田 耕三(神田毛織)	小澤 賢一(オザワファブリック)
	辻岡 三彦(エムティ・アート)	野田 隆司(吉民毛織)
	松田 章敏(マツダ・テキスタイル・プランニング)	
	水谷 仁(田中テキスタイル)	
ニット・カットソー	川村 康文(川村ニット)	武仲 政明(東陽ニット企画)
仕上げ加工	伊藤 武司(艶金興業)	佐藤 功(アイ・アール・ジェイ)
後加工	新木 一(一陽染工)	

## プロジェクト2・テキスタイルプランナー協議会

FDCは尾州産地で企画や開発に携わる方々が、新しい需要を生む新商品の開発や共通の課題解決に対して、一体となって取組むため、「テキスタイルプランナー協議会」を結成、メンバーの主体的活動を支援しています。

これには愛知県産業技術研究所尾張繊維技術センターも技術面で積極的にアドバイスをしております。

### 【これまでの実績】

- ・とうもろこし繊維を用いた生分解性織物の開発。
- ・風合いを損なわない水洗い可能なウール100%素材のスーツ地の開発。
- ・筋や織り段の解析。

なお、今年度は尾州産地オリジナルな春夏素材の開発をテーマに取り組んでいます。



とうもろこし繊維によるシャツ



ウオッシュブルスーツ

## プロジェクト3・次世代繊維産業開拓事業

FDCは尾州産地の可能性を訴求するため、繊維素材の可能性に挑戦します。衣料用途のみならず、材料技術、複合技術、加工技術を組み合わせたりして、産業用資材向けの開発に挑戦します。尾張繊維技術センターと共同で、大学、企業にも呼びかけて産・学・官の連携により、技術開発、製品開発に取り組めます。ご期待下さい。

現在、詳細を計画化しており、決定次第公示、公開していきます。

## コラボレーション1・ジャパン・テキスタイル・コンテスト

FDCは、ジャパン・テキスタイル・コンテスト（JTC）開催委員会と固く連携してJTC運営に参加しています。全国のテキスタイル関係者の「その年のテキスタイルの力作」を世に問うJTCは毎年FDCを会場に開催されていますが、今年度の「JTC2003」には海外4か国・地域を含む372点の作品の応募があり、入賞者を選定しました。全体の55%は愛知県内からの応募ですが、応募年齢は20歳から70歳台まで幅広く、JTCがテキスタイルの「国民的イベント」になっていることを示しました。また、JTC2002の入賞作品の多くが「コンテスト用」としてだけでなく、実際のビジネスに役立っていることが調査で判明しました。その中の準グランプリ作品は大手アパレルの有力ブランドに採用され、「JTCは作品のレベルの高さに加えてビジネスにも寄与する」と評価を高めました。

JTCは平成14年からパリのヤーン展「エキスポフィル」と提携、入賞作品と「エキスポフィル」が選定したエキスポフィル賞作品を同展で特別展示しております。2003年作品も同様に2004年の同展で展示することになっています。



JTC審査会



エキスポフィル審査会風景



## コラボレーション2・ユーロテキスタイルプロジェクトチーム

FDCはJTC開催委員会がバリの国際的トレンド情報会社であるネリーロディ社と提携して進めている「国際水準のテキスタイルづくり」事業と固く連動しています。ネリーロディ社との提携によるものづくりは昨年度からスタートし、今年から本格化しました。これには20社が参加しており、ネリーロディ社のネリーロディ社長が参加するほか、ネリーロディ社スタッフが直接参加各社を巡回指導する熱の入れようです。

ユーロプロジェクトチームメンバーのうち15社のメンバーは4つのテーマ別に制作活動を進め、平成15年12月に東京で開かれた繊維総合見本市ジャパン・クリエーション（JC）に作品170点をFDCブースに出品しました。FDCブースには匠ネットワークの作品も出展しましたが、これと合わせて1,096点ものリクエストを得ました。来場アパレルや百貨店、専門店バイヤーは異口同音に高い評価をしており、JCの後、具体的な商談が進められています。ユーロテキスタイルプロジェクトチームのメンバーは次通り。



ユーロプロジェクトチームの打合せ



JC2004でのFDCブース

### 〈ユーロテキスタイルプロジェクトチーム〉

いわなか、オガワテキスタイル、ソトー、滝善、木玉毛織、小池毛織、三星毛糸、伸和ウール、鈴憲毛織、中外国島、長大、艶金興業、東和毛織、日本エース、丹羽正毛織工場、野村産業、早善織物、ブルーファイン、山長、渡六毛織（五十音順）

## 2、PERSON（育てる）スキーム

パーソン1	創造的テキスタイルマーケター養成講座
パーソン2	ファッションセミナー、技術セミナー
パーソン3	新規採用者向けセミナー

### パーソン1.創造的テキスタイルマーケター養成講座

いうまでもなく、ビジネスを支えるのは人材です。消費の多様化、個性化、高度化が進む中で、マーケットに対応する力を持った人材、マーケットを創造する人材が求められています。FDCはこうした時代ニーズを受けて「創造的テキスタイルマーケター」養成講座を平成15年6月に立ち上げました。

この養成講座は産地の30～40歳台の若手経営者、もしくは将来の経営・営業幹部を対象にしたもので、20名限定で、各月1回、原則土曜日を中心に行っています。わが国、初めての本格的なテキスタイルのマーケティング講座で、（財）ファッション産業人材育成機構（IFI）ビジネススクールと提携、業界第一線の講師を布陣しています。

講座の狙いは「わかる」のではなく「出来る」能力の醸成で、最終的には参加者全員のリアルケースによるマーケティングの戦略プラン立案にあります。

## パーソン2・ファッションセミナー、技術セミナー

ファッションは変化します。FDCは毎年内外の講師を招いて、トレンドセミナーを随時開催しています。また、わが国は技術立国。尾州産地でも高度な技術をベースにした付加価値素材づくりが進んでいますが、FDCはそうした技術に更に研ぎをかけるため織りに関する技術、染色加工に関する技術、アパレルに関する技術、インテリアに関する技術の各セミナーを随時開催しています。これらは開催要項が決まり次第、HPやDMで告知しております。



ファッションセミナー

## パーソン3・新規採用者向けセミナー

FDCは毎年、希望をもって尾州産地に就職された新入社員のために、分かり易いセミナーを開催しています。



新規採用者向けセミナー

## 3、PROMOTION (普及する) スキーム

プロモーション1	東京展 (JCプレビュー展、JC展)
プロモーション2	尾州展 (尾州・テキスタイル・エキシビション)
プロモーション3	ジャパン・ヤーン・フェア (JY)
プロモーション4	海外展 (エクスポフィル展)
プロモーション5	トレンドファブリック収蔵展
プロモーション6	産地ブランド研究会

### プロモーション1・東京展

尾州産地は世界でも最大級のテキスタイル産地です。ものづくりに関しては大きな自信を持っていますが、発信となると過去の流通経路への依存度が高く、不十分でした。今日の経済情勢のもとでは、自分で企画、生産した素材をアパレルや小売店の方々に直接提案して、パートナーと感動を共有することが望まれています。

FDCは新たなビジネスチャンスと人と

商品の出会いのため、産地の方々と発信を続けます。

その1つが、東京での展示会です。平成15年はJCプレビュー、JCへの「FDC匠ネットワーク」と「ユーロテキスタイルプロジェクトチーム」の参加です。FDCブース「FDC-EXHIBITION BISHU TEXTILE」での展示でしたが、共に多くのリクエストをいただき、成功しました。

### プロモーション2・尾州・テキスタイル・エキシビション

尾州産地の方々に日本と世界の優れたテキスタイルをご覧いただき、産地のパワーアップを願って平成15年11月18日から20日までFDCで「Bishu Textile Exhibition」を開催しました。対象シーズンは2004年秋冬物と2005年春夏物で、FDCとJTCが共催しました。内容は次のとおりです。



尾州TEX



ビジョン

### 1、ユーロテキスタイルビジョン

2005年春夏シーズンを対象にしたネリーロディ社によるトレンド分析をパネルで展示しました。同シーズンのトレンドを4つのテーマに分類し、素材情報をより具体的なスワッチパネルで展示したものです。



セレクション

### 2、ユーロテキスタイルセレクション

ネリーロディ社が欧州市場を中心に収集した2004/2005年秋冬シーズンのトレンド素材を約100点、アパレル8シルエットを展示しました。展示は天井からつるした鋼線に素材を架け下げる方法を採用、来客に「触り易い」、「落ち感が分かる」など好評でした。



優秀作品展

### 3、JTC2003優秀作品展

JTC2003でのグランプリを始めコンテスト入賞作品を展示、一般公開しました。また、JTC2003コンテスト審査員の公開トークも行い、ものづくりへの造詣を深めました。

なお、併催事業として愛知県産業技術研究所尾張繊維技術センターの試作展、FDCマーケットセミナー、服飾関係の学生を対象にした学生向けセミナーも開催しました。

## プロモーション3・ジャパン・ヤーン・フェア (JY)

FDCは平成16年2月4～6日、FDCでわが国初めての糸の総合展示会・ジャパン・ヤーン・フェア (JY) を開催します。これはFDC開館20周年事業として開くもので、41社 (特別出展4社) が出展します。開催の背景は①わが国のアパレル、小売段階で糸や原料からの差別化が進んでいる②合繊メーカーや紡績段階で盛んに新素材の開発が進んでいる③しかし、糸生産の海外移転などが進行しており、産地が差別糸と触れ合う場が限られている、などです。

FDCはJYで糸関係者からの商品と情報発信を期待し、テキスタイルメーカーとの交流が促進され、新たな出会いとビジネスが創出することを期待しています。

日本毛織物等工業組合連合会 (毛工連) が特別協力し、愛知羊毛紡績会、愛知県撚糸工業組合、尾西・名古屋・津島・尾北・岐阜県の各毛織工業協同組合が後援、日本化学繊維協会、日本紡績協会、日本羊毛紡績会、日本毛整理協会が協力しています。

## プロモーション4・エクスポフィル展

JTC2002のグランプリ作品など上位入賞作とエクスポフィルが選定したエクスポフィル賞は平成14年12月にパリで開催されたエクスポフィル展に特別展示されました。エクスポフィルとJTC並びFDCは友好提携関係にあり、実現したものです。もちろん、わが国のテキスタイルが同展に出品されたのはこれが初めてで、JTC2003の上位入賞作とエクスポフィルの選定した作品は今年2月25～28日に開かれる「第50回エクスポフィル展」に特別展示されます。なお、今年の同展は2005年春夏のプルミエール・ヴィジョンと同時期開催で連動効果が期待されます。



04SSエクスポフィル



## プロモーション5・FDCトレンドファブリック収蔵展

「流行やトレンドは繰り返す」と言われます。FDCは開館以来20年、テキスタイルの発信を続け、膨大なトレンド資料を蓄積しております。これをトレンドに合わせて展示するもので、例えば平成15年12月には収蔵してある素材の中から復活が予想される91/92秋冬物、92/93秋冬物を津島市で展示しました。この収蔵展は産地のテキスタイルメーカーはもちろんアパレルや生地コンバーターからも好評を博しております。



収蔵展

## プロモーション6・尾州ブランド研究会

FDCは平成15年8月、尾州ブランド研究会を立ち上げました。これは「産地のテキスタイル生産者の思いを消費者や顧客の共感に」、「その手法としての産地ブランドの構築を」という産地の強い声を背景にしたもので、日本毛織物等工業組合連合会（毛工連）や一宮市など行政と連動して進めています。「地域としての存在感を継続して打ち出していく」との思いはFDCのみならず、

業界、行政も同様です。

その道の権威者・名古屋工業大学の加藤雄一郎助教授をコーディネーターに迎え、平成16年度の立上げを目指して、研究を進めています。

FDCは産地ブランドが構築された後、国内はもとより、海外に向けても「尾州」を発信する計画です。

## 地場産品発掘・地域交流事業

### 1、APPERL（アピール）スキーム

#### 地場産品発掘事業 24市町村コーナー 地場産品の即売

FDCは、対象エリアである尾張西部24市町村の地場産業、地場産品の調査事業を行い、地域で特徴のある産業・地場産品を広く紹介し、その成果を基に地域活性化を目指した事業を行います。例えば、七宝焼き製品とファッションビジネスとの融合など、地域内で可能なトータルファッション化を推進します。

また開館20周年を契機に、FDC1階常設展示場に市町村コーナーを整備・拡充し、より多くの地場産品を展示、地域情報の発信により、地場産業センターの機能充実を図ります。

さらに繊維製品を始め、地域の地場製品の販売に取り組みます。

### 2、AMUSE（楽しむ）スキーム

手描き染教室	布に絵を描き染めます
手織教室	実際に手織りを体験します
おやこふれあい教室	布を使っの工作や繊維について勉強をします

FDCは繊維産業の発展はもとより、地域文化の向上を目指して、上記の事業を実施しています。FDCに出捐している24市町村から、広く受講者を募集しています。また各自治体への講師の派遣につきましても対応します。



手描き染教室



手織教室



おやこふれあい教室



## 20周年記念事業 - FDCは20周年を記念して3つの催事を開催 -

### ■記念講演

講 師 (株)伊勢丹代表取締役社長執行役員 武藤信一氏  
テ ー マ 「ファッション・ビジネスの新世紀」  
日 時 1月31日(土)午後2時から  
場 所 FDC 1階 展示ホール  
定 員 300名  
受 講 料 無 料

当財団創設期に、各種セミナー講師としてご指導いただきました武藤社長に開館20周年のメモリアルを機に自信を失った尾州産地に励ましの“喝”と伊勢丹イズムを注入していただきました。

### ■特別協賛セミナー

講 師 (株)大阪繊維リソースセンター顧問 松田正夫氏  
テ ー マ 「川中繊維企業自立化への道」 ~潜在能力を生かし、イノベーションを起こせ~  
主 催 日本毛織物等工業組合連合会  
協 力 尾州テキスタイルデザイナー協会  
日 時 2月4日(水)午後1時30分から  
場 所 FDC 4階 視聴覚室  
定 員 90名  
受 講 料 無 料

松田先生は、わが国の川中繊維企業の方向を指し示していただけるオピニオンリーダーです。氏の多くの経験を通じ、今後我々産地がどう進んでいったら良いのかを示唆いただきます。

### ■ジャパン・ヤーン・フェア (JY)

参 加 41社(合織、紡績、撚糸、商社等)特別出展4社  
日 時 2月4日(水)~6日(金)午前10時から午後5時  
特別協力 日本毛織物等工業組合連合会  
後 援 愛知羊毛紡績会、愛知県撚糸工業組合、名古屋毛織工業協同組合、津島毛織工業協同組合、尾西毛織工業協同組合、尾北毛織工業協同組合、岐阜県毛織工業協同組合  
協 力 日本化学繊維協会、日本紡績協会、日本羊毛紡績会、日本毛整理協会  
場 所 FDC 1階 展示ホール  
入 場 料 無 料

<事業内容>糸の総合展示会は、海外ではフランスのエクスポフィル、イタリアのピティ・フィラティなどが有名で、すでにファッションシステムの一環として確立されていますが、日本ではこうした糸の総合展は存在しておらず、かねてよりヤーン展の開催が望まれていました。

尾州産地はテキスタイルに関しては、世界有数の産地ですが、今後海外輸入製品との価格競争から脱皮し、高付加価値化を進めるには、川上の糸と川中の織り、編み業界がお互いに深く強い連携をとり、「ものづくり」に取り組む必要があります。

この展示会は、その機会を設営するものであり、紡績、撚糸業界の振興のみならず、川中テキスタイル業界の振興も図り、産地・関連業界の活路を拓こうとするものであります。

F D C 役員が語る

# あの時、この時

～私とFDC～

FDC役員の方々に、FDCに対する思いを語っていただきました。

(順不同、敬称略)

## 理事 伊藤 敏雄(愛知県総務部長)

FDCは、愛知県の尾張西部地域の繊維を中心とした地場産業を総合的に振興する拠点施設として、国の地場産業振興センター建設制度を活用して建てられた重要な施設であります。昭和59年2月の開館後はファッション振興を中心に事業展開がされ、地域産業の振興に多大な貢献をしてきました。

この20年の間に、繊維産業の構造も大きく変化し、また、産業を取り巻く環境もグローバル化が一層進むなど、社会情勢は大きく変化しております。このような中、FDCにおいては尾張西部地域の24市町村の協力を基に、各種産業が有機的に連動し活性化する事業展開を図ろうと、今年度からファッション振興事業に加え新たに地域おこし事業を実施し、その中心事業として地場産品発掘事業を実施しております。今後もFDCが、一宮市を始めとする尾張西部地域の経済を支援する中核機関としてのその機能を充分発揮できるよう、念願しているところであります。



開館間近のFDC

## 理事 久保 泰男(愛知県産業労働部長)

FDCは、県尾張西部地域において、一宮市を始めとする市町村や業界のバックアップを受け、繊維産業を中心とした地域産業発展の原動力の役目を果たしております。

近年、中国等からの輸入製品の増加により、毛織物の産地である尾張西部地域の経済環境は誠に厳しい状況にあります。このような中で、FDCは、この20周年の節目に大幅な改革に取り組み、新商品開発、創造的マーケット養成講座、日本初の糸の展示会であるジャパン・ヤーン・フェアの開催を始めとするプロモーション事業など、新たなチャレンジを進めており、今後も地域産業の発展に貢献されることを期待しております。

県といたしましても、地域産業を振興する施策を強力に推進する所存であり、とりわけ、産業技術研究所尾張繊維技術センターでは繊維分野の研究開発、指導をおこなっており、FDCと一体となって、地域産業の振興に取り組んでまいりたいと考えています。

## 理事 若山 金茂(一宮市議会議員)

一宮の繊維産業の不振が叫ばれて30年。大きな不況が急に襲ってくれば、おそらく業界あげて、そして行政も政治もその再生のために、真剣に最大限の回復策を講じたと思われませんが、じわじわと衰退が進んだために、そのうちに何とかなるだろうと、徹底した抜本策を講じることなく今日に及んでしまいました。

バーゲンストアの客層とは違った、質の高いものを望む客層に合わせた製品の開発、生産、販売をする業界に変身しなければ、生き残れないと私は認識しています。その製品が海外に輸出できればなおよろしい。

独創性のある製品を開発し販売するためには、業界の構造改革により、高い専門性を持った強い意欲のある企業のグループ化が必要と考えますが、そのための推進役であるFDCの役割は大きく、その責任は重い。一宮市議会としても繊維産業発展の責任の一端を担っていることを再認識し、FDCをできる限り応援したいと思っています。

## 理事 板倉 正文(一宮市議会議員)

私は「繊維のまち一宮」に住み22年、FDCの歴史とほぼ同じ歳月を過ごし、繊維に従事する人、離れた人等と知り合い、それぞれの方の繊維への情熱に、FDC理事(2年目)をしていることの責任を強く感じています。

私は、繊維で生きる人の応援ができる機会になればと、「尾州・一宮ブランド」をつくろうと提案し、今その方向での取り組みも進んでいますが、繊維会社の倒産が相次ぎ、厳しい状況にあります。個々の努力も必要ですが、ありとあらゆる知恵を出し合い、世界でも優れた繊維技術を生かす「地場産業の繊維」の発展に取り組むFDCにできればと思います。

繊維について最も語り合えるところが「FDC」であり、世界の「ファッションデザインセンター」となるよう熱い思いを込めていきたい。



第31回全国織物競技大会

## 理事 野村 直弘(一宮市議会議員)

平成9年市議会副議長在職時代、各自治体議長との交流事業の一環で、県下では有力な市でありながら、日頃関係の浅い2市の議会議長に、今後の友好を深める為にも、当時FDCで開催されていた一宮市のファッションショーを見て頂こうと招待をしたことがあります。本場のモデルが、世界でも一流のデザイナーの衣装をまとい、華麗な音楽とともに乱舞するそのショーは観客を圧倒し、見る者の言葉すら失わせた。絶賛の興奮の余韻も冷め止まないまま懇談も終わり、無事解散となった時、随行の相手方の議会職員が「これほどまでの行事はとても他の自治体では

行っていない、お返しのご招待は出来そうに無い、困ってしまうな」とつぶやいているのを耳に挟みました。

状況が変わり、ショーとしての事業はなくなったものの、FDCに於いてはファッションも含め繊維産業発展のための情報発信事業は衰えることなく続けられています。繊維の情報を発信し続け、繊維産業を基幹産業とする一宮にとって正に、FDCはシンボルであってほしいと願うものであります。



昭和60年イラスト展

### 理事 三輪 優(津島市長)

一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）の開館20周年誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

FDCが開館されました昭和59年当時はチェルノブイリ原発事故、ニューヨーク株式市場大暴落やイラン・イラク戦争など世界中に衝撃の走る事件が相次ぎました。

経済情勢といたしましては、バブル時代を迎え、土地は高騰し、円相場が次々と最高値を記録したのもこの頃でした。

現在におきましても、イラク情勢を始めとした世界の動きや、国際情勢に伴う円高や国内の雇用情勢など非常に厳しい状況にあります。

こうした中、来春には、愛・地球博の開催、中部新空港の開港も予定されて、地球規模での交流時代を迎えようとしている今日、FDCに寄せられる期待は、ますます高まっております。

この20周年を新たな飛躍への出発点として、関係各位の一層のご精進をいただき、国際社会に尾張地方の毛織物産業をアピールして頂くよう心からお祈り申し上げまして、私の言葉といたします。

### 理事 堀 元(江南市長)

一宮FDCが満20周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

かつて、尾張地方の繊維産業は、「お蚕様」で代表されるように豊かな木曾の流れと温暖な気候に育まれた天恵の産業として発展してきました。

その長い歴史の中では、オイルショックまた円高ショックの大きな波を受けましたが、これ乗り越え、現在も全国屈指の毛織物の産地となっております。

この間の業界及び関係各位のご努力には、深い敬意と感謝の意を表するものです。

又、我が郷土江南市におきましても市域を桑畑が点在していたように養蚕が栄え、そこから製糸、更に絹織物となり現在も全国有数の高級カーテンの歴史となっております。

その中心を成したものは、尾北地方に県下の事業所の大半が集積している撚糸業であり、時代の趨勢と共に近代的設備と新技術の導入により、その製品である高級カーテン地を支えてきました。



しかしながら、昭和40年代中頃から減少の一途を辿り、現在では最盛期の30%程度まで落ち込んでいます。

このような状況から「尾張の繊維」復活を目指して設立された、一宮FDCの役割は極めて大きなものと言えます。

今後は、その使命というべき情報収集、技術開発等、地場産業の再興に向け、ご精進いただきますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



86/87AWFDCテキスタイルトレンド展

### 理事 丹羽 厚詞(尾西市長)

FDC開館20周年誠におめでとうございます。私個人といたしましても、もともとこの業界（染色整理）に携わっており、市長として理事を努めさせていただくことは、まだ一年にも満たないわけですが、FDCには以前より、何かとお世話になっていた次第です。

まずもってお祝い申し上げます。と申しましても、冒頭から暗い話題で恐縮ですが、この20年間、特に近年は、尾張の繊維業界は大変厳しい状況の中で、衰退の一途を余儀なくされていることは誠に残念で憂慮に堪えません。こうした中、FDCの果たしてきた先進情報の収集・提供、人材育成、技術開発、商品開発等の支援事業を、この地域の関係諸団体・企業との今まで以上の力強い連携のもとに、一層の推進を図っていただきますと共に、大きく時代が変わり、求められるニーズも変わろうとしている今こそ、これを契機にFDCが更なる変革と成長が進みますことに大いなる期待と尾州産地再生の望みをかけております。

### 理事 浅田 清喜(尾西市議会議員)

FDCは尾張西部地域の地場産業を創るため、昭和59年2月に開設され、この2月で開館20周年を迎えられます。

この20年間、繊維産業にとっては、とても厳しい時代であったと思います。安価な繊維製品が、中国をはじめとするアジア諸国から大量に輸入されるようになり、尾州地方の繊維産業は大きな打撃を受け、繊維関連の事業所、従業員数、製造品出荷額で、10年前と比較しますとほぼ半数に減少しています。このような状態が続くと尾州産地は消滅してしまうのではないかという危機感を覚えてしまいます。

FDCでは、国内外の企業との産業ネットワークの形成、創造的人材の育成、高付加価値化を支援する等、積極的に役割を果たされ、この経済状況下、着実に成果を上げてこられました。

今後も繊維産業はこの地方の大切な基幹の産業でありますので、世界をリードする尾州産地の復活を支援いただけるFDCでありますことを祈念いたしております。

## 理事 服部 幸道(稲沢市長)

FDCの開館20周年を迎えることができましたことは、地元一宮市を始め、関係各位皆様の格別のご理解とご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

これを契機に、当ファッションデザインセンターの基幹であります繊維産業の健全な育成及び発展はもとより、尾張西部地域における地場産業の振興に寄与するため、今後とも構成市町村の一員として可能な限りの協力をさせていただくつもりです。

さて、昨年、FDCより、地域交流事業である手織教室を稲沢市で開催したいので会場を提供してほしいとの要請がありました。広報等で募集いたしましたところ、申し込み初日のわずか1時間ほどで定員となり募集を締め切ったほどの人気の高さであったことを聞き、ファッションに対し一般の方々の関心も高いものと改めて認識しました。

手作りへの関心、楽しさを通し、ひいては地場産業やFDC事業への関心が広がることを期待しています。

この地域の産業を取り巻く環境は、依然として非常に厳しいと認識しています。FDCにおいても、更なる地場産業の振興に寄与するための事業について検討を進めてきました。その一つとして「地場産業活性化地場産品発掘事業」として地域の活性化につなげるための取り組みが進んでいると聞いています。

今後とも地場産業の拠点として、FDCの発展を期待しています。



91/92AWFDCテキスタイルコレクション

## 理事 山口 昭雄(木曾川町長)

地場産業への貢献のためにその役割と機能を高め続けてきたセンターの歴史において、事業者のためにFDCの扉を開くという、行政担当者としての自分の役割を十分果たせたかどうか、誠に心もとない限りです。

歴史ある尾州の起死回生をめざして、今それぞれの首長が「起業家」の精神で2市1町の合併に取り組んでいますが、私が特にこだわりを持って提案しているのは、「地域ブランド力の向上」です。21世紀には、単なる経済力を越えるブランド力と「グレード」の確かさが求められていると考えるからです。ここにおいてFDCのめざすところとわが新都市の目指すところは一致するはずであり、新都市誕生のためにFDCをひとつの推進力と頼んでいきたいと考えるのは、私一人ではないと思います。

FDCの次なる20年が、尾州新都市の躍進の20年となるよう祈念し、お祝いいたします。

## 理事 友松 隆利(祖父江町長)

FDC開館20周年を迎えるにあたり一言、私の所感を述べさせていただきます。

今日における日本経済の国際化は、あらゆる分野に広がっています。特に情報分野における進歩は驚くばかりのスピードであります。一方、国際的な事業展開に伴う地域産業の空洞化は、我が町においても様々な問題が惹起しています。特に農業、繊維産業への影響は後継者問題と共に大きな課題となっています。しかし一方では事業活動を世界的な規模で展開している企業もあります。プラスマイナスを考えたとき、ある識者の言葉に「企業も、業種も、街も、国家もそして個人も・・・これからは世界全体の中に組み込まれるモノが生き残っていくでしょう」とありました。いずれにしましてもこれからのFDCの役割は愛知万博を契機に、世界的な情報の収集及び発信、他産業との交流等非常に大きなものがあります。今後ともFDCがより幅広い地場産業の核として活躍されることを望みます。



94SSFDCテキスタイルコレクション

## 理事 八木 忠男(佐織町長)

開館20周年を心よりお祝い申し上げます。

戦後21年生まれの私が小学校1年生の頃、父が織物業を始めました。昭和40年3月高校を卒業と同時に親機（協和毛織株式会社 昭和52年閉鎖）へ修行を兼ねて就職をし、一宮市、尾西市、木曾川町の染色、整理、修整、撚糸、ワインダー関係の会社を飛び廻っていました。

昭和45年父が急逝しましたので家業を受け継ぎドルショック、オイルショック、その後の大変厳しい繊維業界の中、家内労働の零細企業でありましたが、野村産業(株)、(株)中外国島、木の兵毛織(株)、(有)オクテキサービスさんなどのお仕事をさせていただきながら平成11年2月に休業をいたすまで繊維関連の多くの皆さんにお世話になりましたこと紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

そうした経歴を持つ一人として過去日本の復興、繁栄に多大な貢献をした尾州繊維産業の礎を忘却することなく、世界に向け発信ステーションとしてFDCが一層充実発展していただきます様ご祈念申し上げます私の思いといたします。

## 理事 墨 明(一宮商工会議所 副会頭)

人材育成部会長を拝命していた頃、(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) と縁があり、小売アパレル対象の充実したカリキュラムが生まれ、案内されており、FDCとの連携を働きかけておりました。6年ほど前よりIFIの関係で全日本デパートメントストアーズ開発機構 (ADO) のバイヤーの方々20数名が、毎年秋に研修の一環で当産地業務を研修されており、当社でも半日近く学んでいただいております。ミーティングしておりますと、川中、川下の双方が各々役割、

リスク分担、悩みについて無知なことが多くその溝を埋める必要がありました。この産地業態が大きく変容するなか、モノづくりをするだけでなく売る人の養成「マーケティング」が必要との認識から、昨年6月より養成講座をスタートし強力な講師陣のもとマーケティングを学んでいます。受動型から能動型・提案型産地（企業）になることを期待しております。



98/99AWFDCテキスタイルコレクション

#### 理事 長尾 大八郎(尾西毛織工業協同組合 理事長)

従来は一般的な参加者としての立場でしたが、私自身FDCの理事に就任して以来はやくも6年が過ぎようとしています。FDC創立20周年の歴史の中で10年ほど続いた、パリ・オートクチュールの華やかなファッションショーの記憶が鮮明に焼きついております。又、定期的な年2回のFDCコレクションに代表されるトレンド展等々に幅広い活動が思い出されます。現在では若手グループによるネリーロディ社提携の「ユーロプロジェクトチーム」、また、発信のできる若手幹部の育成事業「マーケティング講座」等々さまざまな勉強会的色彩へと事業変化している今日この頃であります。

本来ならば、当地区の地場産業である毛織物業界自らがなさねばならない課題であるものをこのようにご指導、ご援助を仰いでいるのが現状であります。

今後、成果が期待されるものであり、産地活性化の力とならんことを願う次第であります。



00/01AWFDCテキスタイルコレクション

#### 理事 安達 勝夫(津島毛織工業協同組合 理事長)

業界代表として約8年間FDC理事として関与してまいりました。この間いろいろの事がありました。アメリカ、ソ連の融和に端を発し、人、物、情報が地球規模で交流するようになり、又為替も戦後の360円が100円を切るようになりました。

国際的に大転換したことから我々の物作りも大転換を余儀なくされました。この難局をFDCの時代を先取りする事業を参考にして転換を計っております。業界としても高い評価を得ております。しかし、FDCの構成は県西部24の市町村で、地場産業対策が繊維などファッション以外の市町村にも対応できるFDCに代わる必要があると思います。更に、現在、各産地、各業界が県という枠組みを越えた仕組みが必要となってきました。産官学が一体となって新しい産業を生み出す必要があります。FDCはこのように新しい領域、新しい分野の核にならねばなりません。

FDCの発展は各市町村の発展に繋がります。みんなでFDCを支えましょう。



## 理事 佐々木 光男(一宮繊維卸商団体連合会 会長)

財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター開館20周年を迎えられ、大変おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。FDCが愛知県、尾張西部地域24市町村、また業界18団体の出捐により、多大な期待と未来を担う重責を20年もの間維持・発展させてこられたのも、理事長の谷一夫様（一宮市長）、副理事長の豊島半七様のリーダーシップの下、事務局の皆様の弛まない努力と感謝申し上げます。

私がFDCで一番心に残る思い出は、現在愛知県知事の神田真秋様がまだ一宮市長の1995年11月の時のことです。当時メゾン「ギ・ラロッシュ」のチーフ・デザイナーであるミッシェル・クラン氏をFDCに迎えて、「ファッション・シンポジウム」を開催しました。その際、ミッシェル・クラン氏と同行して妙興寺を見学に訪れたのですが、氏が古い寺院に大変感激されたのを見まして、私も日本の文化を改めて見直し自信を深めました。

今、日本の繊維産業はグローバル化時代を迎え、中国など近隣アジアや東欧の追い上げにより空洞化が進んでいます。価格だけで競争しては到底太刀打ち出来ません。日本人であることを誇りに感じ、日本の文化や先人の知恵を生かし、日本の繊維技術を守り且つ発展させるためにも、FDCの役割はますます重要になると考えています。私も微力ながら尾州産地のお役に立てればと、FDCの理事の一人として心がけます。皆様、FDCの活動に積極的にご協力いただき、ともに新しい世界の尾州産地を築きましょう。FDCが30周年、50周年を迎えられますように努力しますので、今後とも宜しく願いいたします。



田中一史・タンブンフォンFDCコレクションショー

## 監事 石黒 靖明(岩倉市長)

一宮地場産業ファッションデザインセンター開館20周年おめでとうございます。

FDC創立当時より、社会経済情勢の変化によりFDCを取り巻く環境には極めて厳しいものがあると思いますが、この地域の地場繊維産業の振興に果たしてきた役割には大きいものがあると思います。

かつて、岩倉市には、愛知紡績や大松紡績などの大工場や中小の工場もたくさんありました。しかし、日本全体の繊維産業が衰退していく中で、織物を含め繊維関係の事業所などは減少し、現在では10数軒となっています。当時の大工場は、時代とともにマンションや大型スーパーに変わりました。また、新しい市民も増え、岩倉市が繊維産業の盛んな地域であったことを知っている人も少なくなってきました。

こうした状況の中で、当市議会においては、FDCの管理運営に参加することや今後のあり方についての議論もありました。今後、繊維関連の事業ばかりでなく、地域住民にもFDCが見える施策や繊維産業の他に、地場産業という名称でもあることから、地域の多様な産業の振興にも尽力をいただける施策を望むものであります。

## 監事 酒井 鉄(大口町長)

かつて、大口町が村であったころ、幾つかの紡績や衣料品製造の企業が村の工業誘致に応じ、町の財政基盤の確立に貢献しました。さらにさかのぼれば、村中に織機の音が鳴り響き、その音が村の元気を体現していた時代があったことを思い出します。

今では産業構造の変化やアジア諸国の発展のなかで、繊維産業は苦境の時代を迎えることになり、その苦境を打開するためにFDCが設立されました。しかし、そのFDCは今改革を求められる中で呻吟し、大きな壁に直面しています。

じつは、地方公共団体も今、政策能力と財政基盤を確立するという命題の中で改革を迫られています。合併の推進、構造改革特区への提案などの取り組みがそうです。

塩野七生はローマ人の物語Vで「人間にとっては、ゼロから立ち上がる場合よりも、それまでは見事に機能していたシステムを変える必要に迫られた場合のほうが、よほど難事業になる。後者の場合は、何よりもまず自己改革に迫られるからである。」と改革の困難さを見事に表現しました。自己改革の前には必ずといってよいほど強固な「バカの壁」が立ちはだかるものです。

FDCがこの壁を打ち破り改革を成し遂げ、地場産業の発展に貢献する姿を見ることは、これからの地方分権の確立に取り組もうとする者の励みになるのであります。



佐藤ヒサコ・村上大輔 FDCコレクションショー

## 専務理事 河村 博司

FDCは20周年を迎えましたが、尾州主要地場産業の繊維業界の状況は設立時と大きく変わりました。FDCでは、一昨年の改革小委員会意見書に添って、今年度から、よりビジネス寄りへ事業を見直し、その効果も各方面から大いに期待されています。

また、昨年度よりジャパン・テキスタイル・コンテスト開催委員会（JTC）、本年度より愛知県繊維振興協会の2つの事務局もFDCに置かれました。このことはあまり知られておらず、外部からはFDC、JTC及び振興協会のそれぞれの事業が多分区分けできなく、内部でも時に惑うことが多々あります。それぞれの事業が互いに補完しながら進めていることからと思います。更に、隣接する愛知県の尾張繊維技術センターや毛工連、商工会議所等とも有機的に連携しながら各種事業を進めています。常に変革に対応し、よりビジネス寄りに、より幅広い地場産業振興を目指し、業界の発展を…と願っています。



02/03AWFDCテキスタイルコレクション

# 【FDCと私 ～FDC開館までのアプローチ～】

安藤 暢康(元愛知県産業労働部技監)

一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）開館20周年、おめでとうございます。

いうまでもなく、FDCは地場産業、とりわけ繊維産業に係わっている多くの人々、地元行政や経済団体・商工団体の方々の熱き思いによって建設されました。

昭和40年代の後半の高度成長期、対米繊維問題、ドルショック、オイルショックの中で、「産業の知識集約化」が叫ばれました。個性化、多様化、高級化しつつある消費者ニーズに対応したモノづくりが叫ばれ、特に繊維製品についてはファッション化が必要になってきました。そういった動きの中で、尾張西部地域においては、40年代の終わりごろから「ファッションセンター」をつくりたいという声があがりました。その声を受けて、尾西市長であり、尾西毛織工業協同組合理事長でもあった小川四郎兵衛さんが、愛知県議会議員の浅野一郎さんとともに、愛知県や関係方面に働きかけを行い、愛知県の52年度予算に繊維産業振興調査費がつきました。その調査結果を受け

る形で、昭和53年に、欧米における繊維産業のファッション化の状況を調査する調査団（学識経験者、愛知県や一宮市職員、業界関係者などで構成）が派遣されました。その結果は、「当面は、振興事業を先行させよう」というものでした。そこで昭和54年度、愛知県は「ファッション振興基金」を予算化し、ソフト面の準備が始まりました。

一方、昭和52年に尾西市長の小川四郎兵衛さんが死去されましたが、一宮市長の森銆太郎さんが推進役を引き受けてくださいました。その努力の結果、昭和53年秋、「尾張地方繊維振興対策事業推進期成同盟会」が設立され、相前後して、衆議院議員江崎真澄さんが通産大臣に就任され、森市長は大変心強く感じられたと思います。

昭和55～56年にかけて、本格的に動き始めましたが、地元の繊維業界団体や経済団体が集結して「愛知県繊維振興協会」が設立され、一宮商工会議所会頭の豊島半七さんが会長を引き受けていただきましたことも大きな励みになりました。

## FDC前史・財団設立まで…

昭和53年	11月25日	「尾張地方繊維振興対策事業推進期成同盟会」設立。
	12月12日	「県立・県営による繊維総合ファッションセンターの建設」に関して愛知県知事、県議会議長等に陳情。
	12月19日	「繊維総合ファッションセンターの建設に対する協力について」通産大臣等に要請。
昭和56年	1月31日	「県尾張繊維技術センターの施設拡充及び用地確保について」県知事、県議会議長等に陳情。
	5月12日	繊維業界の需要開拓、人材育成等を目的とする「愛知県繊維振興協会」設立。
	10月 2日	「同盟会」正・副会長会開催。国の地場産業振興センター制度を活用してセンター建設を実現することに決定。
	10月19日	「同盟会」総会開催、名称変更及び規約の一部改正を決める。新名称「尾張地方地場産業振興センター建設推進協議会」。
	10月29日	「地場産業振興センター建設の箇所決定について」名古屋通商産業局に陳情。 「県尾張繊維技術センターの施設拡充及び地場産業振興センターの誘致について」県知事、県議会議長に陳情。
	11月 9日	「地場産業振興センター設置の箇所決定について」通産大臣、中小企業庁長官等に陳情。
昭和57年	2月26日	「推進協議会」より「尾張西部地域地場産業振興計画」を県に提出。
	6月29日	中小企業庁の中小企業近代化審議会において建設地が一宮市に決定。
	7月19日	財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター設立発起人会開催。
	8月 7日	財団法人の設立が認可される。
	8月16日	財団法人の設立登記完了。

# FDC 関連年表

(ワク内数字は月、日)

年代	FDC	JTC	尾州産地の動き	繊維業界等の動き
昭和55年-1980/ まだら景気	・地場産業振興センター(ファッションセンター)設立の動き		2.イースタンストップに出展、(尾西毛工=55、56年) ・設備共同廃棄事業継続で織機買上 (尾西毛工:681台)	・綿紡績、不況カルテル ・ダイエー1兆円企業達成 ・愛知県地場産業総合振興対策のスタート ・サイロスパン開発(CSIRO)
昭和56年-1981	5.12.愛知県繊維振興協会設立(愛知県織物研究会、愛知繊維研究会の合併) 10.19.「尾張地方繊維対策推進期成同盟会」を「尾張地方地場産業振興センター建設推進協議会」と名称変更 ・地場産業振興センター制度で国の補助(2億円)決定		10.毛糸定期市場暴騰(2,549円/キロ)、毛工連、沈静化のため活発な運動展開 10.ニューヨーク展出展(56年～) ・紡毛織物需要上昇へ ・秋冬物で天然繊維見直し気配 ・DCブームに対応して一部企業業績向上	・JFF第1回ニューヨーク展 ・愛知県地場産業総合振興事業補助 ・愛知県繊維ファッション化指針の作成
昭和57年-1982	7.19.「財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター」設立発起人会開催 8.7.財団法人の設立許可 ・FDCの起工式		11.尾張繊維技術センター用地拡張 ・日本毛紡織産業訪中 ・ウールコート売れ行き好調	12.日米新繊維協定調印 ・デザイナーブランドブーム
昭和58年-1983	12.20.FDC竣工 ・ファッション振興事業の一部開始(テキスタイルトレンド予測、内外情報収集・提供、地場産品常設展示普及事業ほか) ・第1回地場産フェア参加(東京)		4.織機登録制度存続運動を毛工連はじめ業界を上げて展開 ・産地で革新織機導入活発化	・ウールフィーバー
昭和59年-1984	2.13.FDC開館 ・事業本格開始(ファッション振興事業=情報収集・提供事業、展示プロモーション事業、人材育成支援事業、地域交流事業) ・第2回地場産フェア(京都)		3.と9の2回、新鋭織維機器展開催(尾張繊維技術センター) ・IWTO年次総会、東京で開催、産地から多数参加 ・尾西毛工、「組合のビジョン」策定	・短繊維ブーム
昭和60年-1985/ 円相場高騰	・手染教室の他に手織教室開講 ・トレンド展と新鋭織維機器展併催		7.愛知県尾張西部浄水場通水式 10.第三回新鋭織維機器展/尾張繊維技術センター新館完成 ・紡毛糸生産高、戦後最高を記録 ・この年、原糸盗難相次ぐ	9.プラザ合意(日米英仏西独:G5)



年代	FDC	JTC	尾州産地の動き	繊維業界等の動き
昭和61年-1986 平成景気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一宮市受託事業開始(欧州ファッション情報展示・説明会(S61~H4))(英国イースト・セントラル・スタジオ社(S61~S63))</li> <li>・手織・手染教室作品発表展示会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>2.毛工連、日本毛整理協会取引改善懇談会</li> <li>・細番手人気、糸価堅調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃糸工連汚職事件</li> <li>・繊維貿易7年ぶり入超</li> <li>・通産省『生活ルネッサンス』提唱</li> </ul>
昭和62年-1987	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場製品販売促進展示開始</li> <li>・中部縦断5県地場産業フェアへ出展</li> <li>・パンフ「テキスポリス21」作成、配布</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1.売上税反対運動展開</li> <li>5.ナゴヤファッション協会設立</li> <li>・細番手人気が持続</li> <li>・紳士服需要拡大で、紳士機屋好調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10.株式市場暴落(ブラックマンデー)</li> <li>・輸入が100億ドル突破、入超額は34億ドルを記録</li> <li>・郊外型専門店増加</li> </ul>
昭和63年-1988	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インポートメンズフェアリック展開始</li> <li>・第4回新鋭繊維機器展(尾張繊維技術センター)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾州産地、高収益企業続出</li> <li>・輸入増大で、産地景気後半から失速気配</li> <li>・第8回ニューヨーク展(香港展は中止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニット製品、輸入が国内生産を上回る</li> </ul>
平成元年-1989/ 冷戦終結	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧州ファッション情報の展示・提供(イタリアのデザイナー・マリアグラツィア女史/H1~2)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クールウールの開発進む</li> <li>・天然繊維ブームの勢い無くなる</li> <li>・ソフトスーツ流行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7.世界デザイン博覧会開幕</li> <li>10.大阪国際繊維機械展(OTEMAS)</li> <li>11.ワールド・ファッション・フェア</li> <li>・消費税スタート(3%)</li> </ul>
平成2年-1990/ 円安進行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場製品の即売開始</li> <li>・テキスタイル情報DB化システム着手</li> <li>・ブルミエールビジョン緊急報告セミナー開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「インターナショナル・ファッション&amp;テキスタイル・ウィーク'91(FATEX'91)」開催準備委員会発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新世代ウール開発</li> <li>・国際モヘア会議に産地から参加</li> <li>・豪州羊毛在庫増大でACが買い上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IWSがジャバンウールフェア開催</li> </ul>
平成3年-1991/ バブル経済崩壊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧州ファッション情報展示・提供(フランスのサッシャ・バッシュ社(H3~4))</li> <li>・新世代ウール展(H3~5・IWS協力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「FATEX'91(一宮市制70周年記念事業)」開催(テキスタイルコンテスト:6カ国1,411点応募、バリファッションファンタジー:オリビエ・ラビドス/ハナエ・モリによるファッションショー)</li> <li>・昭和26年スタートの「全国織物競技大会」(39回)休止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6.「毛織のメッカ尾州一尾西毛織工業90年のあゆみ」中部経済新聞社に6ヶ月に亘り連載</li> <li>・新合繊ブーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繊維業界の海外生産(中国、ベトナム等)活発化</li> <li>・インポートブランドの失速</li> </ul>
平成4年-1992/ 平成不況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧州ファッション情報を展示・提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「FATEX'91」を「ジャパン・テキスタイル・コンベンション(JTC)」と改称(招聘メジン:ルコアネ・エマン/ファッションシンポジウム/ファッショントゥモロー等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1.設備登録制度全廃を議決(尾西毛工総代会)</li> <li>・繊維工業構造改善事業スタート(ツシマウール=4~5年、津島毛工4年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業界不況色に包まれる</li> <li>・中国からのアパレル製品輸入急増</li> <li>・ファッション産業人材育成機構発足</li> </ul>

年 代	FDC	JTC	尾州産地の動き	繊維業界等の動き
平成5年-1993	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館10周年記念事業(記念講演(ダイヤモンド社会長川島譲)、記念セミナー(山本寛斎))</li> <li>・地域産業育成支援事業開始(10億円基金運用・H5～H15)(ファブリック開発、情報ネットワーク化、アパレル・マーケット情報収集提供、「ザ・尾州」創刊(H5～H14)等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JTC'93」(招聘メゾン:ピエール・バルマン)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合素材ブーム</li> <li>・織機登録制廃止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10.大阪繊維機械展</li> <li>12.ガット・ウルグアイラウンド最終決着</li> <li>・アパレル人材育成産学協議会発足</li> <li>・円高一段と進む</li> <li>・業界一段と不況</li> </ul>
平成6年-1994	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションデザイナー提携による製品化とミニショー開始</li> <li>・アパレル収集・展示(FDCアパテックス)</li> <li>・FDCテキスタイルDB確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JTC'94」(招聘メゾン:ニナリッチ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形状記憶等機能素材の開発相次ぐ</li> <li>・夏の水不足で染色整理がピンチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4.IWSウールマーク有料化発表</li> <li>11.尾州フォーラム開催</li> <li>・為替相場一時100円割る</li> <li>・繊維の中国投資283件349億円</li> <li>・テックスビジョンミカワ開催(6年～)</li> </ul>
平成7年-1995/ 阪神淡路大震災/ パソコンブーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「テキスタイルプランナー協議会」発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JTC'95」(招聘メゾン:ギ・ラロッシュ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地で震災地支援の動き盛り上がる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1.WTO繊維協定発効</li> <li>9.繊維産業革新基盤整備事業(TIIP事業)実施</li> <li>・繊維の中国投資255件455億円</li> <li>・PL法施行</li> </ul>
平成8年-1996/ 不良債権	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「繊維産業革新基盤整備事業(TIIP事業)」の実証実験・参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JTC'96」(招聘メゾン:エマニュエル・ウングロ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定分野進出等事業(尾西毛工)</li> </ul>	
平成9年-1997	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション情報「TeFIAネットワーク」で各種情報の収集・提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JTC'97」(招聘メゾン:ハナエ・モリ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税率引き上げに伴う消費不振で受注減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7.香港返還</li> <li>12.日本綿スフ織工組連迂回輸入防止とTSG発動条件緩和を通産省へ要望</li> </ul>
平成10年-1998	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12.「ファッション・テクノ工房」開設(HP開設)</li> <li>・ファッション映像情報(INN)提供開始</li> <li>・ジャパン・クリエーション(JC)'99出展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JTC'98」(招聘メゾン:パコ・ラバヌノ/優秀作品展に「サロン・ド・JTC」新設)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7.IWS、ザ・ウール・マークカンパニーに名称変更</li> <li>・倒産、廃業相次ぐ(2年間に業者数織物関係で13%、染色整理関係33%減少)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1.第1回JC開催/12.第2回開催</li> <li>4.金融ビッグバン/愛知県商工部繊維雑貨課を機械繊維産業課と改称</li> <li>12.ファッション産業21世紀委員会、民間ビジョン発表</li> </ul>
平成11年-1999/ 婦人服専門店「エゴイスト」(カリスマ店員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「テキスタイル・プランナー協議会」に3研究会開設/相談業務(週1回)</li> <li>・パリ・メゾンのデザイナー、尾州素材でオートクチュールを製作・展示</li> <li>・インターstoff・アジア'99秋(香港展)初出展(H11～12)</li> <li>・熟練者向けセミナー開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JTC'99」(招聘メゾン:ジャン・ルイ・ジェレル)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>5.(財)日本ファッション協会、(財)日本アパレル産業協会、(財)ファッション産業人材育成機構により「ファッションビジネス競争力フォーラム」創設</li> <li>12.第3回JC</li> </ul>

年 代	FDC	JTC	尾州産地の動き	繊維業界等の動き
平成12年-2000/ IT革命/ 「ユニクロ」の ブリーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業間連携による素材開発推進(2グループで複合素材を試作)</li> <li>・トレンドファブリック収蔵展開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JTC2000」(招聘メゾン:ルイ・フェロー/JTCミレニアム展)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毛製男子外衣輸入1,698着、女子外衣輸入1,580万着に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4.愛知県組織再編(商工部→産業労働部、機械繊維産業課→新産業振興課内繊維生活産業室)</li> <li>12.第4回JC</li> <li>・アパレル業界も中国進出</li> </ul>
平成13年-2001	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JC2002出展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JTC2001」(招聘メゾン:ハナエ・モリ/20世紀オートクチュールデザイナーズ展(一宮市制80周年記念事業))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーツの輸入千万着を超え1,017着に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1.省庁再編成(通商産業省→経済産業省、中部通産局→中部経済産業局)</li> </ul>
平成14年-2002	<ul style="list-style-type: none"> <li>4.JTCへの参画と事務局をFDCに設置</li> <li>10.第1回尾州テキスタイル・エキシビジョン開催(“尾州TEX”:FDCコレクション/JTCコンテスト優秀作品展/ユーロトレンドパネル展を併催)</li> <li>11.FDC改革小委員会意見書提出、事業の見直しへ</li> <li>12.JC2003出展(JTCユーロチーム開発素材)</li> <li>・「産地活性化のための青年の集い」(業種間連携の集い)開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JTC事業見直し(コンテスト賞金、審査員等一新・作品海外展示及び内覧会/パリファッションファンタジー休止/ユーロテキスタイルビジョン開始)</li> <li>・「ジャパン・テキスタイル・コンテスト(JTC)」に改称/新生JTCのスタート</li> <li>12.パリのエキスポフィル展へ特別展示(エキスポフィル賞及びJTC入賞作品等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4.尾州テキスタイルコレクション創設</li> <li>・竹繊維など新繊維の開発相次ぐ</li> <li>・ブルミエール・ヴィジョンに尾州企業が初参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナスイオン素材開発相次ぐ</li> </ul>
平成15年-2003	<ul style="list-style-type: none"> <li>4.愛知県繊維振興協会事務局をFDCへ/情報誌T&amp;Fリニューアル</li> <li>5.29.FDC匠ネットワーク結成</li> <li>6.「創造的テキスタイル・マーケティング講座」開設</li> <li>8.おやこふれあい教室開設/地場産業、地場産品調査事業</li> <li>8.11.尾州ブランド研究会発足</li> <li>11.18.~20.第2回尾州TEX開催(インポートセレクト展/JTCコンテスト優秀作品展/ユーロトレンドパネル展)</li> <li>12.3.-5.「FDC東京展」をJC2004で開催(JTCユーロプロジェクトチームと匠ネットワーク各開発素材出展)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JTC2003」開催(第2回尾州TEXにコンテスト優秀作品展示/ユーロトレンドパネル展/エキスポフィル賞及びエキスポフィル特別展示作品選定/内覧会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毛工連「産地再生アクションプラン」発表</li> <li>・繊維川中自立事業で毛織組合関係4社が認定</li> <li>・インターテキスタイル上海に毛織関係6社が単独ブース</li> <li>・ツイード人気復活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10.インターテキスタイル上海</li> <li>・繊維川中自立事業開始</li> </ul>
平成16年-2004	<ul style="list-style-type: none"> <li>1.FDC改装(常設展示市町村コーナーを整備・拡充等)</li> <li>1.31.~2.6.開館20周年記念ウィーク事業(記念講演、セミナー、第1回ヤーンフェア〈JY〉開催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2.パリのエキスポフィル展にエキスポフィル賞及びJTC2003入賞作品等を特別展示</li> </ul>		

●(参考:「愛知の繊維」愛知県商工部(平成12年3月)、「毛織のメッカ尾州」(尾西毛工、平成4年)等)

# デザインに見るFDC20年

## ■'85春夏～'94/'95秋冬



'85春夏



'85/'86秋冬



'86春夏



'86/'87秋冬



'87春夏



'87/'88秋冬



'88春夏



'88/'89秋冬



'89春夏



'89/'90秋冬



'90春夏



'90/'91秋冬



'91春夏



'91/'92秋冬



'92春夏



'92/'93秋冬



'93春夏



'93/'94秋冬



'94春夏



'94/'95秋冬



■ '95春夏~'04春夏



'95春夏



'95/'96秋冬



'96春夏



'96/'97秋冬



'97春夏



'97/'98秋冬



'98春夏



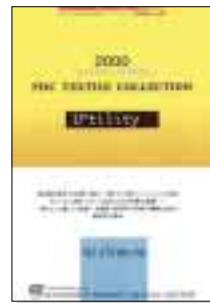
'98/'99秋冬



'99春夏



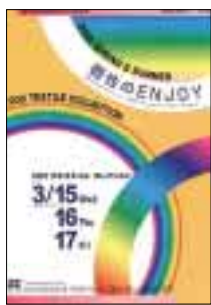
'99/'00秋冬



'00春夏



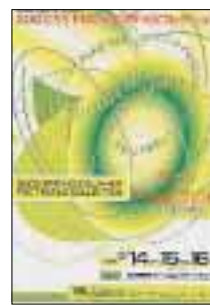
'00/'01秋冬



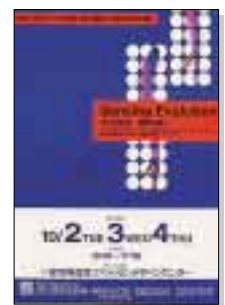
'01春夏



'01/'02秋冬



'02春夏



'02/'03秋冬



'03春夏



'03/'04秋冬



'04春夏

■テキスタイル&ファッション Vol.1~Vol.20



Vol.1/No.1~No.12  
(1984年4月~1985年3月)



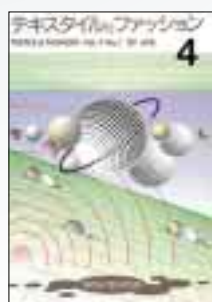
Vol.2/No.1~No.12  
(1985年4月~1986年3月)



Vol.3/No.1~No.12  
(1986年4月~1987年3月)



Vol.4/No.1~No.12  
(1987年4月~1988年3月)



Vol.5/No.1~No.12  
(1988年4月~1989年3月)



Vol.6/ No.1~No.12  
(1989年4月~1990年3月)



Vol.7/No.1~No.12  
(1990年4月~1991年3月)



Vol.8/No.1~No.12  
(1991年4月~1992年3月)



Vol.9/No.1~No.12  
(1992年4月~1993年3月)



Vol.10/No.1~No.12  
(1993年4月~1994年3月)



Vol.11/No.1~No.12  
(1994年4月~1995年3月)



Vol.12/No.1~No.12  
(1995年4月~1996年3月)



Vol.13/No.1~No.12  
(1996年4月~1997年3月)



Vol.14/No.1~No.12  
(1997年4月~1998年3月)



Vol.15/No.1~No.12  
(1998年4月~1999年3月)



Vol.16/No.1~No.12  
(1999年4月~2000年3月)



Vol.17/No.1~No.12  
(2000年4月~2001年3月)



Vol.18/No.1~No.12  
(2001年4月~2002年3月)



Vol.19/No.1~No.12  
(2002年4月~2003年3月)



Vol.20/No.1~No.12  
(2003年4月~2004年3月)

## ●インフラの整備を使命と考える●

お陰さまでFDCは開館20周年を迎えることができました。これもひとえに関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝します。

愛知県、尾張西部地域24市町村、関係業界18団体の熱意でFDCが設立されたのは昭和57年8月7日で、59年2月13日にはFDC開館の運びになりました。新しい会館を目の前にして、職員一同、「繊維を中心とした地場産業の発展に微力ながら、しかし精一杯の力を出して貢献したい」と決意をあらたにしました。

あれから20年、わが国経済、繊維産業、尾州産地は大きく変貌しました。とりわけ地場の主要産業である毛織物業は消費の低迷と輸入品の増加などから、大変厳しい状況に立たされました。私たち職員一同は、環境が厳しさを増すごとに、「お役に立つことは何か」「ビジネスに貢献できることは何か」を考え、行動してきました。

そして今期、FDCは「さらにビジネス寄りに」をテーマとしたルネッサンス方針を打ち立てました。変化に機敏に対応していくことが、お役に立つと考えたからです。地場繊維産業の発展のために「売れるものをつくる」、「売る人材を育成する」、「売れる仕組みをつくる」であり、地域おこしでは「地場産品の発掘」と「地域住民と交流」が、その柱です。

地場産業の発展に不可欠なインフラの整備こそFDCの使命と考えます。FDCに来たら「ビジネスチャンス」の芽がある」といわれるよう、さらに健闘します。

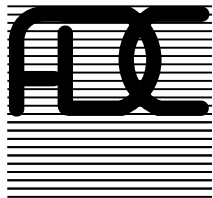
職員一同、今後の5年、10年も皆さんと共に歩み続けます。引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。20周年を機に、改めて尾州産地は不滅であると考え、与えられた任務に邁進します。

平成16年2月1日

FDC職員一同



「久遠の絆」加藤 卓男 作 陶壁前にて



ICHINOMIYA FASHION DESIGN CENTER